

## NICUより退院の発達障害児の 在宅ケアに関する研究

(分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅  
ケアシステムに関する研究)

研究協力者 長 島 忠 昭

**要約：**NICUより、さまざまな程度や成因のちがいをもちながら、何れも発達障害を負ったまま在宅療育を目標として退院してくる患児たちを、そのまま家庭に帰すには強い不安を残すという場合、①ここにNICUと家庭の間に、発達障害の克服を目的とした、いわゆる中間施設的な療育病棟の整備が、十分な医療の高さを保持された地域療育センター病院に要求されるのである。②一方、重度発達障害児に於いては、その後の或いは生涯にわたる療育生活を余儀なくされることが予想される場合、その在宅地域に於いて、総合的な療育センター病院の設置を含めた地域福祉計画の新たな検討が望まれる。

**見出し語：**発達障害、発達療育、社会福祉

**研究方法：**1. NICUより退院した障害児を迎える療育センター病院及びその「療育病棟」の設置をめぐる諸条件の検討

1) 新潟県内及び療育センター病院建設予定地の新津保健所管内に於ける発達障害児の発生状況並びに現況

地域参考資料：①極小未熟児出生の現状に関する調査研究報告書(新潟大学小児科教室)②心身障害者の現況(県民生部)③母子保健の現況(県環境保健部)④保健所衛生年報(新津保健所)⑤国立療養所及び県立或いは民間の各施設に於けるデイケア資料 (表略)

2) 療育センター病院及び「療育病棟」の建設

建設予定地域などに於いて、建設目的や意義について十分な討議を経て、その建設母体となる「親の会」や福祉サークル、ボランティア組織などのメンバーから構成された「建設委員会」により、建設地の決定と用地の買収、資金の調達、そして、建設規模とか療育病棟を中心とした設計内容などの検討

2. 「乳幼児発達療育中間施設」システムの研究

1) 医療と療育の一体化

NICUより退院してきた発達障害児を単に医療ケアの面からのみ捕えないで、神経学的発達療育手法を日常併用することによって、むしろ

る臨床症状の改善をもはかろうとするもので、積極的に発達療育を推進しようとする中間施設としての「療育病棟」へ或期間入所をすすめる。

#### 2) 「いきいき療育手法」の開発研究

最近の中樞神経系の可塑性について、その進んだ研究成果を背景に、発達障害児のキャッチアップへの期待が大きく、そのため既存の療育手法のみではあきたらず、自分たち自身の手による新たな意欲開発療育への研究が望まれる。(統合感覚誘発療育、意欲開発湧躍療育、音楽導入温浴療育、トリオ療育情動賦活など)

#### 3) 生活療育ルーム

療育病棟での発達療育の進展から、そろそろ在宅療育が可能となってくる頃ともなれば、母子相互間や家族同志のコミュニケーションのため、在宅へ向かっての練習期間として、家庭生活に

近い生活療育ルームへの移行が考慮される。

#### 4) 在宅療育の中核として

在宅の療育児たちに通院の便宜をはかったり、地域に居住する障害児と健常児との統合遊びや交流を促進するなど、在宅療育の中核となるアクティブな中間施設の研究。

#### 3. 高齢障害病棟と発達療育病棟との統合療育と触れ合いの研究

高齢障害としての脳機能低下の予防ならびに克服のためと、乳児期及び低年齢期の発達障害児には高齢者の巧みな扱い方が適合するとて、両者が一体となった愉快的発達療育手法の開発を研究する。(コミュニケーションガーデン、温水浴療育及び音楽導入開発 — センサー備えの浮袋など)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:NICU より、さまざまな程度や成因のちがいをもちながら、何れも発達障害を負ったまま在宅療育を旨として退院してくる患儿たちを、そのまま家庭に帰すには強い不安を残すという場合、ここに NICU と家庭の間に、発達障害の克服を目的とした、いわゆる中間施設的な療育病棟の整備が、十分な医療の高さを保持された地域療育センター病院に要求されるのである。一方、重度発達障害児に於いては、その後の或いは生涯にわたる療育生活を余儀なくされることが予想される場合、その在宅地域に於いて、総合的な療育センター病院の設置を含めた地域福祉計画の新たな検討が望まれる。